

適性検査	就学適性検査	就学時に学校生活のレディネスができていかどうかをみるもの。
	職業適性検査	一般的適性、事務的適性、機械的適性の三つの検査がある。
	才能検査	音楽的才能、運転技能などの特殊な能力を発見しようとするもの。
	運動能検査	協応動作、巧み性、バランスなどをみるもの。
	運動力検査	走力、跳躍力などの運動能力をみるもの。
学力検査	標準学力検査	学力偏差値を出して、個人が標準からどれだけかたよっているかを知るもの。
	学力診断検査	学力のどの点に障害があって、つまづいているかをみるもの。
	その他	読書力診断検査、美術鑑賞テストなど。

4. 心理検査実施上の留意点

心理検査の実施にあたっての留意点を、いくつかあげてみる。

- (1) 我が国で使用されている心理検査は、その種類も、その数も実に多い。従って、精度のよい、検査目的に相応した適切な検査を選ぶようにしなければならない。また、どの検査にも、効用と限界があり、これらの諸点をよく調べたうえで、使用することが必要である。
- (2) どんな事例についても、ひとつの検査のみで診断することはほとんどなく、子供の心身の各側面を広く深く理解するために、観察・調査を加えるのが一般的である。
- (3) 集団で検査を実施する場合は、学校行事（運動会、遠足、学習発表会等）の前後は避け、また、なるべく午前中の疲れの少ない気分の良い時が望ましい。
- (4) 検査を実施する場所は、子供がよくなれた場所がよい。そして、検査者以外の教師や他の子供が立ち入るような、また、騒々しい場所や、子供が緊張するような場所を避ける。
- (5) 無用な不安を与えず、持てる力が十分に発揮できるようにしてやる。このためには、子供との間に共感や信頼関係が自然に生ずるようにし、子供が質問に対して気楽に反応できるように努める。また、検査の目的や方法を説明する場合は、余りに強制的・命令的な言い方を避けるようにする。